

●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民謡の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

## SHINWA WALK 13

### 熱田の蓬莱山伝説

伝説  
そぞろ歩き  
道険し  
困難の後  
喜びが  
これぞ御法と  
神住む山へ



### 風光明媚な土地・熱田を

#### 「蓬莱山」と呼ぶように

蓬莱とは、もともと中国の伝説にある「蓬莱」「方丈」「瀛州」という三神山の一つで、東海の中にあって仙人が住み、不老不死の地とされる霊山でした。司馬遷の「史記」には、紀元前3世紀の頃、秦の始皇帝は徐福という仙術士をこの三神山に派遣して、不老不死の仙薬を求めさせたことがあります。

また、平安時代には徐福は日本に渡来したといわれるようになりました。徐福日本渡来説を初めて記したのは、中国後周の僧釈義楚の撰による「釈氏六帖」です。それによれば、徐福は日本に上陸したと記されていて、蓬莱山は富士山とされています。そして、ここに永住した子孫は、中国の秦に因んで秦氏を名乗ったといわれています。しかし、徐福渡来説は、熊野・佐賀・厳島をはじめ日本各地に伝えられていて、ここ熱田もその一つです。

蓬莱思想は、古代中国で生まれた世界観の一つで、日本人は古くから遠かな遠い理想郷を常世国と呼んでいました。日本最古の歴史書とされる「日本書紀」には、「蓬莱山」と書いて「とよのくに」と読ませている部分があり

ますが、風光明媚な土地を理想郷に見立てて「蓬莱山」と呼ぶ伝承が生まれていったのかもかもしれません。

蓬莱山は巨大な亀の甲羅の上に立っているとされていて、熱田を蓬莱山とするなら、地の底には巨大な亀が横たわっているはずですが、南北朝時代から室町時代に成立したといわれる書物「熱田宮秘釋見聞」には、「熱田宮の地下には金亀が住み、その亀の背に大宮が建てられ、頸の部分に八剣宮（熱田神宮の別宮）が、頭の部分に藤太夫社（上知我麻神社）が、尾の部分に高倉宮（高座結御子神社）がそれぞれ建てられ、この熱田宮を蓬莱島という」と記してあります。



▲熱田神宮の地下には大きな亀が住み、その頸の部分に建てられたとされている八剣宮（別宮）。

### オリュンポスへの道は険しい

#### 「困難の後に喜び」の教え

円福寺の山号は亀井山ですが、「尾張名所図会」によれば、足利尊氏の一門である厳阿が、堂宇建立の際、井戸を掘り、その底で大亀の甲羅のような大きな岩につき当たったことから、「熱田＝蓬莱山」説をますます信じるようになり、以後山号として亀井山が用いられるようになったといわれています。さらに、熱田周辺には、円福寺以外にも、亀腹山聖徳寺、亀岳山春養寺、亀足山正覚寺、大亀山金隆寺、金亀山長盛院、亀山山藤江寺と「亀」のつく山号が多く、蓬莱山の伝説に由来していることが推測されます。うなぎの老舗「あつた蓬莱軒」も、この伝説がもとになって命名されているようです。

一方、ギリシャ神話で神々が住んでいるとされているのが、オリュンポス山。全能の神・ゼウス、ゼウスの正妻・ヘラ、穀物の女神・デメテル、海の神・ポセイドン、知恵の女神・アテナ、太陽の神・アポロン、月の女神・アルテミス、愛の女神・アフロディーテ、商売の神・ヘルメス、鍛冶の神・ヘパイストス、戦闘の神・アレス、酒の神・ディオニソスの12の神が「オリュンポスの12神」として絶大な権力を握っています。

ゼウスとアルクメネの子・ヘラクレスは、12の冒険に出かける前、2つに分かれている道の橋路に立ち、どちらへ行ったらいいのか迷います。一方の道は、平らで歩きやすい道で、山を下ったところに見える、気持ちの良さそうな町に通じているようでした。もう一つの道は、上へ上へと高く高い山まで通じていて、見るからに険しそうな道で、途中から雲の中に消えていました。迷っているヘラクレスに若い女

「



の人がやってきて「あの町へ行けば、親切な人がいてあなたが欲しいものは何でも手に入ります」と誘います。

その時、もう一人の女の人が山道を上っていくのを見かけます。ヘラクレスが近づくと、「あの町で手に入る気持ちのいいものは何の値打ちもありません。私と一緒に山道を上っていきましょう。高く上れば上るほど辛くなりますが、その代わり至上の喜びを知ることになるでしょう」と言いました。ヘラクレスは山道を選び、その山道こそがオリュンポスへとつながる道だったのです。これは「理想郷への道は険しく、困難を克服してこそ喜びがある」という教え（御法）といえます。

亀が下支える理想郷・蓬莱。片や険しい山道の遠く遠く先にあるオリュンポス。「ひつまぶし」を味わいながら、蓬莱とオリュンポス談義に花を咲かせて神々の世界に思いを馳せてみるのも一興です。



※今回は、熱田神宮に伝わる信長御伝説をお送りします。お楽しみに。

■写真/Kiyoshi K ■イラスト/Rei ■取材・文/Icarus